

Vol. 171

2018.1.15

理事長トーク Top Interview

今年は西伊豆健育会病院から 年頭所感を発信しました

医療法人社団 健育会 理事長 竹川節男



健育会グループの仕事始めとなった2018年1月4日。今年は、開設30周年を迎える西伊豆健育会病院からテレビ会議システムを使って年頭所感を全病院・施設に発信しました。

冬晴れの穏やかな天気の中、まずは西伊豆健育会病院が位置する静岡県賀茂郡西伊豆町の氏神様にあたる佐波神社に院長やマネージングディレクター達と参拝し、今年の西伊豆健育会病院の病院業務の安全、職員の成長、医療を通じた地域への貢献などを祈念いたしました。



その後、病院に戻り、健育会グループ全職員に向けて年頭所感を述べました。その内容については、すでに2018年元旦にアップした理事長トークvol.170に全文を掲載しています。それに加え、講話では以下の内容を話しました。



今年、西伊豆健育会病院が開設30周年を迎えました。加えて、健育会グループ最初の病院である竹川病院は65周年を迎え、熱川温泉病院は50周年、石巻健育会病院は開設25周年を超えています。このように歴史ある病院が名を連ねる中に、昨年は新しく2病院が仲間として加わり飛躍的に成長しました。今年は地に足をつけて、我々のビジョンである「心豊かなグループ」へと成長していきたいと考えています。

健育会グループの原点は、初代理事長が竹川病院で実践した「目の前の患者さんを救う」ことです。1953年当時、日本には健康保険すらありませんでした。戦後10年も立たない混乱の中、医療を求めて非常に多くの患者さんが病院に押し寄せたそうです。ひたすらに目の前の患者さんを治療して、裕福な患者さんには医療費を払ってもらい、そうではない患者さんの中には自分で栽培・収穫した野菜を置いていったり、あるいは全く医療費を払えない患者さんもいたそうです。そのような中でも、病院の経営としては帳尻が合い、病院は少しずつ成長しました。それは何故かという、当時は聴診器とレントゲンと小さな手術台だけが病院の設備で、まさに「医は仁術」だったからです。

しかし65年が経ち、医療機器は大きな進化を遂げました。新しい病院を開設するにあたって、最新鋭の機器を整備することが必要不可欠となり、そこに投資という概念が生まれ、病院にもしっかりとした経営基盤が必要となってきました。そのような背景から、昨年は新病院の開設により、将来への大きな投資を行いました。そして今年は昨年の投資を力に変え、経営基盤をしっかりと確立する年になります。初代理事長が実践された魂を引き継ぎながら、職員の皆さんと心をついに、ビジョンの達成を目指したいと思います。

グループ全体に向けた講話の後には、西伊豆健育会病院の職員に向けて、以下のような話をしました。



西伊豆健育会病院、開院30周年おめでとうございます。30年前の開院当時、私が初代院長を務めておりましたので、大変感慨深く感じています。言うならば私の地域医療の原点は、この西伊豆健育会病院での体験からきています。ここでの経験は、未だにグループを運営していく上で役立っています。

その後、仲田院長に入職してもらい、現在の西伊豆健育会病院の姿があります。メディカルスタッフの確保が難しい中、院長が率先して医師の確保に奔走してくれていることに大変感謝しています。また少ないスタッフの中、救急病院としての使命を30年間全うし続けていることは、本当に素晴らしいことだと感じています。これからも、この流れ、この火をますます燃やし続けて欲しいと思います。



その後は長年、西伊豆健育会病院に勤めている職員の皆さんに感謝を伝える恒例の永年勤続表彰式を行いました。勤続20年1名、勤続10年3名の計4名の表彰となりました。西伊豆という人材確保の難しい地域ながら、勤続20年の吉田医師をはじめとして長く働く職員が増え、大変頼もしいと感じました。



西伊豆健育会病院を皮切りに、今年も私が全病院・施設を回って、年頭所感の挨拶と永年勤続の表彰を実施しました。以下に、その様子を紹介します。

1月4日 介護老人保健施設 しおさい — 静岡 —

しおさいは、毎年の経営も安定しており、健育会グループの中で優等生的存在です。しかしながら、現在、人材確保が課題となっています。本部においても引き続き人材確保に全力で取り組んでいきますが、まずは職員の皆さんの知恵と工夫で、さらに新しい風を起こし、これからも安定した運営を続けて欲しいという思いを伝えました。



1月4日 熱川温泉病院、ライフケアガーデン熱川 — 静岡 —



昭和40年に温泉を活用しながら、より専門的で集中的なリハビリテーションの提供が可能な病院として熱川温泉病院は開院されました。最近では、発症早期のリハビリテーションが重要視されていますが、私は慢性期の患者さんには特に温泉療法は効果があると思っており、そういう意味でこれからますます熱川温泉病院の存在が重要になっていくという主旨の話を職員に向けてしました。

1月5日 湘南慶育病院 — 神奈川 —

昨年開設した湘南慶育病院の職員の皆さんには、健育会のミッション・ビジョン・バリューや病院理念の重要性について改めて話しました。そしてこの病院の病院理念を早く作成し、年頭所感の中で話した「新しい風」について、また健育会グループの中で最大規模の病院であるこの湘南慶育病院が、グループにとって追い風になって欲しいという主旨の話をしました。



1月5日 石川島記念病院 — 東京 —



石川島記念病院は、心臓病センター、地域包括医療病棟がありますが、比較的小規模のため経営的に安定することがなかなか難しい状況です。そのような中、経営を安定させるためには、来院した患者さんを一人でも多く診て、入院が必要な患者さんを入院させ、治療すべき患者さんを治療して、地域に貢献していくということを、しっかりと実行していくことだと考えています。そのような思いと、今年はしっかりと成果を上げて欲しいという強い思いを新年に改めて職員に向け話しました。

1月6日 茅ヶ崎セントラルクリニック — 神奈川 —

茅ヶ崎セントラルクリニックが5年前にグループに加入して以降、創設者の小川元理事長が丹精込めて作り上げてきた文化を受け継ぎ、そして健育会の文化と良い形で融合して経営が行われていることを感じています。茅ヶ崎セントラルクリニックは、健育会の中で最大の透析クリニックです。そのようなことから、透析部門で、健育会グループの先導者として、グループを引っ張って欲しいという思いを職員に伝えました。



1月6日 **ライフケアガーデン湘南 — 神奈川 —**

以前、友人の母が入居していたのですが、とても評判が良く、その友人は今でも「ライフケアガーデン湘南は良かった」と言ってくれています。そのことを例にしても、職員の皆さんは自分たちが行っているケアに自信を持って良いと考えています。しかし残念ながら、現在、施設としては安定した運営ができていません。今年はケアへの自信をアピール力に変え、一人一人の職員が「一人でも多くの方にご入居いただきたい」という気構えを持って行動して欲しいと思います。

1月9日 **竹川病院、ケアセンターけやき — 東京 —**

健育会グループは65年前に初代理事長が竹川病院を開設したことから始まりました。初代理事長は目の前の患者さんを救うことに加え、患者さんを社会復帰させる療法として、当時はまだ一般的でなかったリハビリテーションが必要だと考え、取り組み始めました。そのような流れの中、竹川病院は東京で第一号の療養型病床の病院となり、リハビリテーション病院と療養型病院の草分けとなって成長してきました。そのような歴史を引き継ぎ、さらに新しい風を起こして欲しいという話を、職員に向けて話しました。

1月9日 **ケアポート板橋 — 東京 —**

社会福祉法人、株式会社、そして医療法人はそれぞれ法人の性格が異なりますが、それぞれの持っている良さが融合された運営を不二健育会は行っていると思います。5年前の天皇后陛下の行幸啓も民間の社会福祉法人としては非常に珍しいことですが、我々がやってきたことが認められたからこそだと思います。そのような中、ケアポート板橋には新しい社会福祉制度、そして健育会グループの新しい風を力に、他の模範になれるような運営を行って欲しいという思いを職員に向け話しました。

1月9日 **ライフサポートひなた — 東京 —**

ライフサポートひなたは、開設して数年が経ちましたが、経営的に厳しい状況が続いています。病院や施設は開設して1～2年は厳しい状況になることは承知していますが、現在もグループの他の仲間に支えられているのは、あまり良い状況とは言えません。4月には介護報酬改定もあります。そのような中、改定の中身をよく勉強し、考えて、知恵を絞って、現在の状況から脱却して欲しいという強い思いを、職員に伝えました。

1月9日 **大泉学園複合施設（ねりま健育会病院、ライフサポートねりま） — 東京 —**

リハビリテーションだけに特化した病院は、グループ内でねりま健育会病院が初めてです。この病院によって、健育会のリハビリテーションのメソッドが確立されたと感じています。そのような思いや、ライフサポートねりまも含め、ますます患者さん・ご利用者に貢献し、世の中に情報を発信して欲しいということを期待を込めて話しました。

1月10日 石巻健育会病院、ひまわり在宅グループ — 宮城 —

7年前の震災後、石巻健育会病院と名前を変え、今の地に移設して3年が経ちました。職員の皆さんの努力により、石巻地区において健育会グループは非常に高い評価をいただいています。今年は、電子カルテを導入します。また、ひまわり在宅グループにおいてもICT化に取り組む予定です。新たな取り組みを通じて、さらに石巻地区の皆さんのために頑張りたいという思いを、職員の皆さんに話しました。



1月10日 介護老人保健施設 しおん — 宮城 —



しおんは開設6年を迎えました。昨年は様々なことがありましたが、雨降って地固まるの言葉通り、非常に安定した運営を続けることができています。介護老人保健施設は在宅強化型の基本報酬見直しがありますが、必ずしも強化型にこだわらず、しおんのように介護度の重い人を受け入れて、施設でしっかりと看取るということも重要な役割だと考えています。職員に向けて、そのような思いと、知恵と工夫を持って業務の見直し・改善を行って欲しいということや、これからもご利用者の要望を汲み取って頑張りたいということをお伝えしました。

1月11日 花川病院、オアシス21、花ぴりか — 北海道 —

花川病院は北海道最大規模のリハビリテーション病院です。そして老人保健施設オアシス21は、3ヶ月で自宅復帰を目指すという、我々のグループでは唯一の在宅強化型の老人保健施設になります。またサービス付き高齢者住宅の花ぴりかは、健育会グループで初めてのサ高住となっています。このように喬成会は北海道で様々な挑戦を行っており、職員の皆さんへの講話でも、北の地よりグループ全体に、どんどん新しい風を送り込んで欲しいということをお話しました。



1月12日 いわき湯本病院 — 福島 —



どの病院もその地域の人々が望むことに応え、地域に貢献し、クライアントの心を豊かにするという事は、グループが成長しても変わりはありません。いわき湯本病院が健育会に加わって12年が経ち、昨年は質の改善も大幅に進み、抑制している患者さんは0になりました。これからも地域密着型として地域に貢献し、グループに新しい風を送り込んでください。